令和4年司法試験の結果について

九州大学法科大学院長　山下　昇

令和4年9月6 日、令和4年司法試験の結果が発表されました。

本学の修了生22名が合格いたしました。詳細は以下の通りです（括弧内の数字は全国の順位です）。

項目	全国	本学
○受験者数	2677 名	66名
そのうちの既修者の数	1656 名	37名
そのうちの未修者の数	1021名	29名
○最終合格者数	1008名	22名（12位 ）
そのうちの既修者の数	790名	13名（14 位 ）
そのうちの未修者の数	218名	9名（5位 ）
○最終合格率（最終合格者数／受験者数）	37.65%	33.33%（12位 ）
既修者	47.71%	35.14%（20位 ）
未修者	21.35%	31.03%（7位 ）
○法科大学院修了直後の者の最終合格率	54.52%	53.57%（13位）
既修者	62.32%	55.56%（14位）
未修者	32.60%	50.00%（5位）

令和4年司法試験における本法科大学院の最終合格者数は22名、最終合格率は33.33%でした（12位。全国平均は37.65%）。過去5年の本法科大学院の最終合格率の順位は、平成30年9位（33.33%）、令和元年11位（33.90%）、令和2年9位（46.67%）、令和3年21位（29.31%）であったところ、昨年に比べて、最終合格率は改善しましたが、2年連続で、全国平均を下回り、厳しい結果として受け止めています。

昨年の課題の一つであった①未修者の合格率は、最終合格率・修了直後合格率ともに、全国平均を大きく上回り、改善状況がみられました。一方で、4回目受験の平成30年度修了生の3名、3回目受験の令和元年度修了生の1名、2回目受験の令和2年度修了生の3名がそれぞれ合格しましたが、②2回目以降の受験者の合格率の向上、並びに、既修者コースの中間層の合格率向上に向けて、引き続き、課題を改善していく必要性があります。

課題の一部に改善がみられるものの、本年の結果を詳細に分析して、修了直後の最終合格率の引上げに加え、2回目以降の受験者の合格率の改善を図るため、教育課程の見直しと修了生への対策を講じて、最終合格率の向上につなげていく所存です。